

事業実績書

事業名		我入道なかにわマルシェ ～コミュニティナースと育む未来の居場所～
場所		我入道林町自治会館
期間		令和7年10月1日 ～ 令和8年3月25日
	日程	実施項目・作業項目
事業内容		<p>※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。</p> <p>イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など)</p>
	10/2 10/9 10/18 10/20 10/23 10/24 11/8 11/13 11/14 11/15 11/16 12/8 1/22 2/5 2/14 2/22 2/24 3/6 3/8 3/12 3/14 3/15 3/16	ミーティング 日時・場所・イベント名・お掃除企画 立案 ミーティング 出展者のリストアップ・場所変更のため再設定 デザイナーとチラシ案のミーティング 会場調査（予定だった旧校舎は倒木の危険あり我入道公演に併設する林町自治会館へ変更それに伴いイベントの名前も「我入道の宴」に変更） 会場出展場所確認と連合自治会長への報告 我入道エリア各町内の自治会長さんへ情報提供と回覧板と掲示ご協力をお願い。 sns で告知始める ミーティング 出展場所や掲示物など諸々最終確認 前日会場設営・音響確認・リハーサル 「我入道の宴」開催 会場最終掃除 次回に向けての検討会 ミーティング 日時・場所・イベント名の再確認等 ミーティング 出展者やステージ出演者のリストアップと公募 デザイナーとチラシ案のミーティング 我入道オープンチャット開設 我入道エリア各町内の自治会長さんへ情報提供と回覧板と掲示ご協力をお願い。 公開ミーティング 当日の各担当者確認・出展場所や出展者の時間割等 sns での告知始める 公開ミーティング 出展場所や掲示物など諸々最終確認 前日会場設営・音響確認・リハーサル 「我入道の宴」開催・次回に向けての検討会（公開） 会場最終掃除
事業効果		<p>※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を、具体的な数値を用いて記載してください。</p> <p>11月 全18店舗うち我入道住民及び商店の参加店舗8店舗 来場者数300～400人以上 開催前の地域との対話件数約30件 協賛・支援5件</p> <p>3月 全21店舗うち我入道住民及び商店の参加店舗13店舗 来場者数500人ほど 開催前の地域との対話件数約50件 協賛・支援6件</p> <p>本事業の実施により、地域住民の交流促進や新たな担い手の参加など、当初の目的である地域コミュニティの活性化につながる多くの成果が見られました。</p> <p>当日は、中学1年生の参加者から「次回は運営のお手伝いをしたいので連絡が欲しい」との申し出があり、若い世代の地域活動への関心が生まれるきっかけとなりました。また、秋葉町在住の住民（40代の方）からも「次回開催するなら焼きそば屋を担当したい」との申し出があり、次回以降の担い手の広がりが見られました。</p> <p>さらに、秋葉町自治会長からは本事業に対して高い評価をいただき、「近年衰退傾向にある地域のお祭りを一緒に盛り上げていきたい。地域のつながりづくりについて相談に乗ってほしい」との声をいただき、地域連携の新たな展開につながる可能性が生まれました。</p> <p>コミュニティナースのおでんブースでは人手が足りず運営が慌ただしい状況となりましたが、老人会の方々が自主的にお手伝いに入ってくださいました。売り子を担当された方々からは「とても楽しかった。</p>

また参加したい」という声が聞かれ、高齢者の生きがいがづくりや社会参加の機会にもつながりました。

また、来場者から「次はいつ開催するのか」といった問い合わせや、次は私もステージで何かしたいという声などが多数あり、継続開催への期待が高いことが確認できました。

地域外からの協力や自主的な支援も見られました。リハーサルに参加した出演者が自発的にステージ周辺の清掃を行うなど、イベントを支える意識が自然に生まれていました。また、事前に会場となる公園の清掃を行ってくださる地域住民もおり、地域全体でイベントを支える雰囲気形成されていきました。

さらに、町内の方からは「この地域にはお祭りが少ないため、このようなイベントを開催してもらえて嬉しい」といった声も寄せられ、本事業が地域の交流機会の創出に寄与したことが確認できました。

これらの反応から、本事業は地域住民同士の交流促進、地域活動への参加意欲の向上、そして地域コミュニティの再活性化に一定の成果を上げることができたと考えています。

※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。

本事業は、地域住民の交流機会の創出と地域コミュニティの活性化を目的として実施したものであり、結果として当初設定した成果指標を上回る成果を得ることができたと評価します。

まず数値面では、11月開催時には出店18店舗のうち我入道地域の住民・商店による出店が8店舗であったのに対し、3月開催では出店21店舗のうち13店舗が地域住民・商店による参加となり、地域主体の参加割合が大きく増加した。来場者数についても、11月の約300~400人から3月には約500人へと増加し、イベントの認知度と地域内外からの関心が着実に高まっていることが確認できました。さらに、開催前に実施した地域住民や自治会との対話件数は約30件から約50件へと増加し、地域との関係構築が大きく進みました。協賛・支援も5件から6件へと増加し理解と協力を得ることができました。

事業の効果は数値だけでなく、地域コミュニティの活性化という観点においても顕著に表れていました。当日は中学1年生の参加者から「次回は運営を手伝いたい」という申し出があり、若い世代の地域活動への関心を生み出すきっかけとなっていました。また地域住民から「次回開催するなら焼きそば屋として出店したい」との申し出があるなど、新たな担い手の参加意欲が生まれていたり、これは単発のイベントにとどまらず、地域活動の担い手育成という点でも大きな成果であったと思われまます。

さらに、当日は老人会の方々が自主的にブース運営を手伝う場面や、出演者が前日から会場の清掃を自発的に行う場面、子供達が出店者のお手伝いを始めるなど、世代を超えて参加者同士が自然に支え合う関係性が生まれていました。イベントを地域全体で支える雰囲気だけでなくそれぞれが自分ごととして自主的に関わることで単なるお客さんではなく担い手にもなり、高齢者にとってはフレイルの予防にもなると考えられます。中年層が高齢者から我入道に伝わる秘伝の味噌の作り方を教わりながら笑い声が絶えない光景や、高齢者がお客さんの赤ちゃんのお世話をする姿、子供相手に対戦ゲームを考え、両者ともにワクワク楽しんでいる姿などもありました。

自己評価

また、各自治会長からは本事業に対して高い評価をいただき、「衰退傾向にある地域の文化的祭りを一緒に盛り上げて欲しい」「地域のつながりづくりについて相談に乗ってほしい」といった声が寄せられました。これにより、自治会との連携や地域活動の新たな展開につながる可能性も生まれ、加えて来場者からも「次はいつ開催するのか」という問い合わせが多数あり、継続開催に対する地域の期待の高さが確認されました。

今回、我入道の宴の開催にあたり、我入道のオープンチャットの運営を開始しました。そこでは、老人会の方や小学生が登録しており、オープンチャット上でも世代を超えた我入道の情報共有がおこなわれている状況にありこれからの進展が楽しみとなっています。

以上のことから、本事業は地域住民同士の交流促進、地域活動への参加意欲の向上、新たな担い手の創出という点において、当初の目的である地域コミュニティの活性化に対して大きな成果を上げることができたと評価します。

また、事前にアドバイザーの方々からいただいた点につきましては、マルシェを通じて多世代が自ら繋がりがあっていく姿勢が見られ、交流の広がりには十分にあったと思います。なぜならこのマルシェは我入道の住民にとっての居場所的なマルシェと位置付けたことで、大々的な広報は控え我入道住民にターゲットを絞ったクローズド的なイベントにしたことで誰もがコミュニケーションが取りやすい形となったのではないかと推測します。将来的な展望は予算書には組み込んでいなかった点や3年目でも補助金への依存度が高いと指摘された点につきましては、この三年間地元の人間でない立場で我入道の方々や信頼関係を構築していくにあたりスピードは遅かったかもしれませんが、その分ゆっくりじっくりと顔と顔を合わせる対話を重ねて濃密な信頼関係が構築できてきたと感じています。

来年度は連合自治会と我入道の由緒ある文化的行事を共催するような動きに繋がってきており、そこには自分ごととして今から準備をしていくことにワクワク楽しみにしている住民の方々の顔が多数あり、自治会活動の担い手不足が問題となってきている近年に対して新しい担い手が生まれるきっかけに繋がりがそのような様子も見受けられます。よって、この3年間の活動はとて有意義な形で新しい未来を生み出しつつある

	<p>ように感じています。今後は本事業を元々あった我入道の文化的行事と融合させて、地域住民が楽しみながら担い手となっていけるようコミュニティナーズは持続可能な地域活動を伴走者として見守っていくことを目指したいと思います。</p>
<p>今後の活動予定</p>	<p>※ 補助金を利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。</p> <p>今回の開催を通じて、地域住民同士の交流が生まれ、新たな担い手の参加意欲が確認できたことから、地域コミュニティ再生に向けた第一歩として一定の成果が得られたと考えています。</p> <p>近年、地域では神社の祭典や町内行事など、従来から続く地域文化の担い手不足が課題となっています。本事業では、住民が気軽に関わられる交流の場を創出し、将来的な担い手の育成につなげることを目的としました。実際に、中学生をはじめとした若い世代の参加希望や、地域住民からの協力の申し出があり、関心の高まりが見られました。</p> <p>こうした中で、コミュニティナーズは「ジャッジしない」「上下関係をつくらない」関わりを大切にしながら、住民と同じ目線で人と人をつなぐ役割を担っています。この関わり方が、安心して参加できる雰囲気を生み、主体的な関わりを引き出すことにつながっています。</p> <p>今後は、公開ミーティング等を通じて住民が企画段階から関われる仕組みを整え、地域全体で支えるイベントとしての定着を図ります。コミュニティナーズは、その中で関係性をつなぐ伴走者として、住民主体の活動を支えていきます。</p> <p>また、こうしたつながりを基盤に、神社の祭典や地域の伝統行事の再構築も視野に入れていきます。運営面では、出店料や協賛金を活用しながら持続可能な体制を整え、地域主体で継続できる活動へと発展させていきます。</p> <p>本事業は、交流を起点に担い手の育成と地域文化の継承を促し、持続可能な地域コミュニティの形成につながる取り組みとして、今後も発展させていきます。</p>